

## 電気の局所給湯設備でコストカット。メンテナンス負荷も軽減します

宿泊施設様向け 400V タイプ

### 電気瞬間湯沸器 EIWX G300A1

ホテル客室内の  
シャワーに最適

EIWX-G300A1は宿泊施設様向けの局所給湯設備です。セントラル給湯方式では大きなコストと手間がかかるメンテナンスの省力化と、イニシャル/ランニングコストの削減が可能です。シャワーに適した400V電圧というだけでなく、さまざまな設定が可能な湯沸器で、宿泊施設様の負担を軽減させます。



セントラル給湯における配管に掛かる負担を削減します。客室内シャワー室の近くに設置することでムダも削減（→詳細は裏面）



※シャワーヘッドと並べたイメージです。湯沸器本体のシャワー室内への設置はご遠慮ください。

### 製品の特長

- 1 客室内に設置できる小型の壁掛式湯沸器
- 2 排水処理が不要で施工が簡単
- 3 多機能設定パネルでお好みの温度に1°C刻みで設定が可能(30~60°C)
- 4 温度優先と流量優先機能の切替設定可能
- 5 漏水など異常時に給水を遮断する機能を搭載。安全機能が充実

#### <多機能設定パネル>



設定温度



給湯温度



給水温度



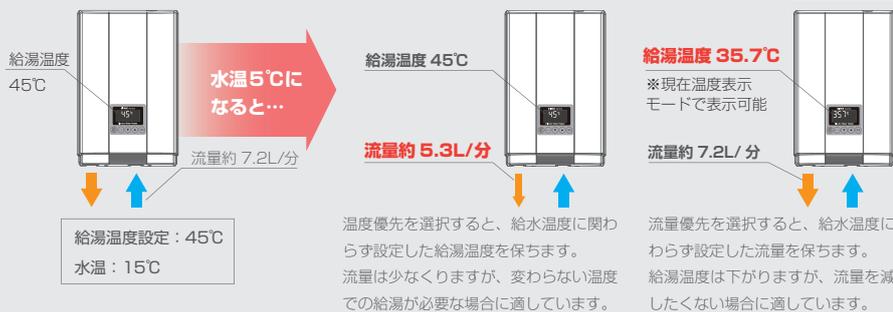
流量

設定温度・給湯温度・給水温度・流量を表示することができます。現在の状態を把握することができるので、お湯のご利用状況に合わせてさまざまな設定が可能です。



### NEW 温度優先と流量優先切替機能 (イメージ)

<例>



仕様	型番
標準電源	EIWXG300A1
定格消費電力(kW)	三相400V
定格電流(A)	30.0
発生熱量(MJ/h)	43.3
号数換算(※1)	108.0
設定温度範囲(°C)	17.2
使用流量範囲(L/min)	30~60
満水質量(kg)	約2.0~15.0
使用圧力(静止時)(MPa)	約8.0
本体寸法	0.1~0.75
設置場所	幅255×高さ397×奥行97mm
価格	屋内
付属品	オープン
	配管カバー/安全弁/逆止弁(組込済)/ネジ類

3年保証

省エネ

### 「ミラブルplus」をセットで販売中



Science I feel



サイエンス  
ウルトラファインバブル  
生成シャワーヘッド  
ミラブルplus

ウルトラファインバブル生成シャワーヘッド「ミラブル plus」をラインナップ。EIWX とセットでのご購入が可能です。\*1

EIWX でご利用のシャワーヘッドをミラブル plus にするだけで、毛穴の奥まで届くウルトラファインバブル\*2 (超微細気泡) を生成する、優れた洗浄効果を持つシャワーに変わります。普段どおりにシャワーを浴びているだけで、1cc あたり約 2000 万個以上\*3 のウルトラファインバブルが毛穴やシワの間に入り、汚れを吸着してきれいに洗い流してくれます。

※1：シャワーヘッド単体での販売は行っておりません。シャワーヘッド+盗難防止キット+EIWX本体のセットでの販売となります。

※2：ウルトラファインバブル：直径1μm未満の泡の事（ISOで定められた国際標準規格）で、マイクロバブルよりさらに小さく、非常にすぐれた洗浄力を持つ。

※3：ミラブルを通過した水に含まれる気泡数を計測。気泡の評価は差分法による。測定はファインバブル産業会1b認証。

## セントラル給湯方式と局所給湯方式のランニングコスト比較

ガス給湯器を利用したセントラル給湯方式と電気瞬間湯沸器 EIWXG300A1 を利用した局所給湯とを比較しました

### 【年間コスト】

#### ガス給湯器

年間ランニングコスト：¥12,140,523+法定点検費用※：¥400,000=¥12,540,523

#### 電気瞬間湯沸器 EIWX G300A1

年間ランニングコスト：¥10,793,049+法定点検費用：¥0=¥10,793,049

EIWX G300A1 だと  
12,540,523-10,793,049=  
**¥1,747,474**の  
**お得!**

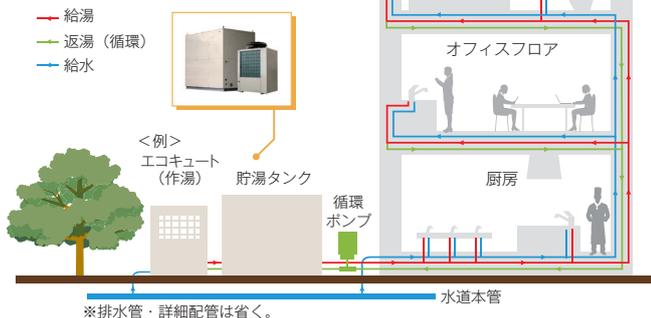
### 試算条件

7階建てビジネスホテルを想定(当社納入実績ホテルにて想定) 客室数219室、セントラル給湯の場合の配管長718m(50A)と仮定、給湯使用量は1室あたり200L(60℃)と仮定。電力単価 夏季17.29円/kWh、その他期12.21円/kWh、都市ガス単価130円/m<sup>3</sup>(単位発熱量10,748kcal/m<sup>3</sup>、機器効率82%)、ガス給湯器に関しては点検コストとして年間40万円加算 ※ガス給湯器の法定点検費用は導入後3年以内に一度発生する費用として計上

## セントラル給湯方式と局所給湯方式の設備比較

### セントラル給湯のイメージ

給湯場所から離れた場所で大量にお湯を作り、建物全体にめぐらせた配管で給湯します。



### 局所給湯のイメージ

給湯場所の近くにある給湯設備(小型電気瞬間湯沸器)でお湯を作ります。



## 小型電気瞬間湯沸器を利用した局所給湯のメリット

- ・配管が短いため、初期費用およびメンテナンス費用が削減できる
- ・給湯箇所が近いため、お湯を直ぐに出すことができる
- ・貯湯タンクを持たず、設置スペースが小さい
- ・大量にお湯を使ってもお湯が無くなることのない
- ・燃焼系給湯器と比べて効率が良く、熱エネルギーを無駄なく給湯に使うことが可能
- ・火を使わないため換気設備が不要
- ・使う時しか電気を使わないため省エネルギー
- ・CO/CO<sub>2</sub>が発生せず、環境負荷が小さい
- ・環境性の高さ、省エネ性からSDGsなどの取り組みに貢献できる

## 客室の給湯設備で採用増の局所方式について

宿泊施設での給湯設備はこれまでガスや重油などを利用した燃焼系のボイラーによるセントラル方式が主に採用されてきました。施設全ての給湯をカバーするセントラル給湯は、大きい貯湯タンクと広い設置スペースが必要です。配管は貯湯タンクから給湯箇所まで膨大な長さとな数が必要となるため、初期費用だけでなく経年によるメンテナンスの費用負担が大きいものとなっています。費用面だけでなく、脱炭素を目指すこれからの社会においては、燃焼系ボイラーによる給湯から、熱源を燃焼系から電気へシフトするなど、給湯の在り方を転換する動きも始まっています。

こういったことから、客室の給湯設備にはメンテナンスが容易で費用が抑えられる局所給湯方式を採用する事例が増えてきており、イトミックは給湯のプロフェッショナルとしてご協力致します。